

中項目	小項目	自己評価		学校関係者評価		今後の学校改善に向けて	
		小項目評定	中項目評定	中項目評定	意見、提言等		
学び合い	1 支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践	A	A	現況 ・教師が児童同士の関係性をしっかり把握し、支持的な学級集団づくりに取り組むことができている。子どもたちが自分の思いや考えを安心して伝えることができ、学び合う姿につながっている。 ・ICT機器を活用し、子どもたちが主体的に学ぶ姿がよく見られた。ICT機器をより有効的に活用し、より深い学びにつなげられるようにしていきたい。 ・「子どもたち一人一人が学びを愉しむ授業」を目指し、より良い授業のあり方を模索していきたい。今後、今以上に少人数になり、複式学級になることが考えられるので、一斉指導方式から、個に応じた授業づくりを検討する必要がある。	A	意見、提言等 ・小規模校で少人数であることを大切にしながら個に応じた学習が進められている。複式学級での指導は今後の大きな課題である。 ・一人一人を大切にしたい学級づくりが基本となり、安心感をもって学習に向き合う姿勢がとれているように感じる。学年間のつながりの中で指導の系統性を考えていくことで、個々の教師の指導力が向上するように感じるので担当学年を超えた柔軟な指導があるとよいと思う。 ・太鼓の練習日に1～6年生までとても仲が良いので、ほほえましい。 ・少ない児童数なので、個々の学力を把握し、それに合った教育を行うべきである。	今後の学校改善に向けて ・子どもたちが安心して学級や学校で過ごすことができるように、引き続き教師が一丸となって学級づくり、学校づくりに取り組みたい。子どもたちが自分の思いや考えを安心して伝えることができる点を生かして、学習がより深まるように、授業力向上をより目指したい。 ・ICTのより効果的な活用方法を検討し、系統立てて子どもたちに力をつけていけるようにしたい。 ・「子どもたち一人一人が学びを愉しむ授業」を目指し、引き続き取り組んでいきたい。少人数を生かした、新たな学び方を模索していきたい。
	2 協同する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善（ICTの活用含む）	A					
	3 主体的・対話的で深い学びを追求する授業研究や研修会	B					
道徳教育	4 生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳実践力を育てる活動の実施	B	B	現況 ・週1時間を確保し、計画的に道徳科の授業が行えているが、資料の開発、整備、交流については不十分である。 ・人間関係が原因によるトラブルは、実際の日常生活の中でも起きている。 ・よい体験活動をたくさん行っているため、本校の重点項目を意識して取り組めるとよい。また、体験で終わらず事後活動も大切にしていきたい。 ・9月の授業参観では、全学年で道徳の授業公開を行うことができた。	B	意見、提言等 ・古い封建的な風土のある学区であるが、その中で育つ子どもは都会育ちと変わらず人間関係に悩んでいるからこそ道徳教育が大切であろう。 ・道徳教育は学校と家庭が協力して取り組むことが肝要である。 ・取組みの計画、実践後の子どもの姿、取組みに対しての評価を記録しておくことが次年度の取組みを考える指標になると考える。 ・ソーシャルスキルトレーニングやエンカウンター等、手法を工夫して取り組まれてもいいのではないか。	今後の学校改善に向けて ・道徳科の授業の中でだけ留まることなく、人間関係が原因によるトラブルについては、その都度生活の中で指導していく。 ・少人数の利点を活かし、自分なりの感じ方、考え方が素直に出せる時間になるようにする。 ・授業で活用した資料等がある場合は、次年度に残しておく。 ・来年度も授業参観で、道徳科の授業公開を行う。 ・本校特有の体験活動に引き続き継続して取り組んでいくとともに、事前、事後の活動も大切にしていきたい。
	5 道徳科の授業・評価に関する研究や資料の開発・整備・交流	B					
	6 保護者等への道徳科の授業公開	B					
体力づくり	7 たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善	B	B	現況 ・子どもたち一人一人が自分の力を発揮できるように意識した授業づくりや体育行事計画が進められている。 ・今後人数が減ると、体育の授業での試合やゲームに限りがあるので、授業の工夫を検討する必要がある。	B	意見、提言等 ・少人数の学校ではゲーム型の運動は難しいが、なわとび、卓球、バドミントン等の少人数で頑張れる種目への工夫ができると良い。 ・内容によって複数学年で行うなどねらい合わせた取組み方の工夫が必要だと思う。 ・異学年での取り組み等、子どもたちは、アミーゴタイムを楽しみにしているという声を聞きました。 ・休み時間に運動場で楽しい声が聞こえてくるのは、うれしいことです。 ・休み時間に全児童、先生で運動場を走っておられた。「持久走」は子ども達には、大事である。	今後の学校改善に向けて ・体育の授業は、合同体育をするなど工夫と準備をして進める。 ・アミーゴの持ち方を工夫し、ロングの昼休みを設けたり、子ども同士が関わったりする機会を取り入れていきたい。そのことが、男女混合や異学年での集団遊びが成立することにつながる。
	8 体力づくりを推進する運動実践	A					
	9 体を動かす気持ちよさを体験させ、進んで体を動かそうとする意欲の育成	B					
指導改善	10 学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善	A	B	現況 ・校内研究のテーマに「仲間の良さを認めて進んで学び考えを深める子ども～学びを愉しむ仰木っ子の育成～」を掲げて、子どもたち一人一人が「分かった」「授業が楽しい」「学校が楽しい」と思えるように教師が一丸となって取り組めた。 ・今年度は、県総合教育センターの派遣研究「児童一人ひとりが自分の考えを数学的に表現する力」を共同で行った。授業構想シートや一人ひとりの学びをタブレットに蓄積して活用するなど、授業改善に努めた。 ・行事の精選や教育課程を工夫することによって、学期初めと終わりのにゆとりが生まれ、働き方改革につながった。 ・仕事の見直しを持ち、スクールサポートスタッフさんに依頼するように努めた。	B	意見、提言等 ・IT機器の利用などは上手に使いこなしているのに感心する。個々の能力を高める指導改善にスポットを当てると良い。 ・児童が自信と希望を持って成長できるようにすることを目的として本校を卒業されて各分野で活躍されておられる諸先輩方の体験談を聴かせていただく「ようこそ先輩」の特別授業を復活させていただきたい。 ・一人一人の「わかった」の気持ちから「もっと学びたい」気持ちにつながると思うので、校内研での成果だと思える。 ・今後も様々な機関と連携して働き方改革をすすめてください。 ・小規模校の良さを活かして一人一人に寄り添う授業が行われている様に思います。 ・子どもにとって先生の実存は大きい。先生が余裕をもって子どもと向き合える環境をつくるのが大切である。	今後の学校改善に向けて ・本校児童の課題に即した授業改善や授業形態について、組織的・系統的な指導を進めていけるよう全職員で共通理解を図りながら取り組んでいきたい。 ・小規模校ならではの、職員間の風通しの良さを大切にしていきたい。 ・教材研究の時間をしっかりと確保し、授業づくりにより力を入れていきたい。 ・学力向上の面からも、働き方改革の面からも、夏休みの課題はドリルを活用していく。 ・再来年の学級減でこれまで通りとはいかないので、組織の見直しを図っていく。(温故知新) ・専科教員の先生方や生活支援員の方と子どもの様子等を共有し、指導の方向性を一致させながら指導にあたるようにしていきたい。 ・教職員全員が心身ともに健康で働くために、タイムマネジメントの意識を高め、全員で取り組んでいきたい。
	11 教職員の指導力、情報活用能力、及び組織的な教育力の向上	B					
	12 働き方改革の取組と教育活動の質の改善	B					

家庭・地域との連携・協働	13	保護者の子育てに対して積極的な支援	B	B	・コミュニティスクールとして地域からの多大なご協力・ご支援のおかげで各学年とも地域学習を実施できた。豊富な体験量で一人ひとりが主役になれ、自信をつけられる活動であるため、児童の自己肯定感や自己有用感が高まっている。図書や農園のボランティアさんにもたくさんご協力いただいた。	A	・地域も保護者も学校教育への期待と協力は充分にある。PTAから保護者会になるなど社会的な流れは止められない。「三方良し」の精神で小学校を支えていけないだろうか。	・来年度の教育課程に地域人材を有効活用する地域学習を位置づけ、小規模校ならではの体験活動を継続していく。また、学年の実態に合わせて効果的な実践を行う。	
	14	保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域人材の活用	A		・毎回の授業参観に、たくさんの保護者の方にご参加いただいた。2月の学習成果発表会の後の時間に、スクールカウンセラーを講師に、保護者の方を対象にした子育て懇談会を予定している。内容については、保護者の方と相談しながら進んでいる。		・体験を重視した地域との連携学習は、自身の生活に根ざして実感を伴う学びになっていると思う。		・図書ボランティアの方々の働きかけや環境整備により、図書館教育が充実してきた。子どもたちが本の世界に興味を持てるように、引き続き学校と連携して進めていきたい。
	15	防災・防犯教育の推進と、安心・安全な学校づくり	B		・年間の授業参観に、たくさんの保護者の方にご参加いただいた。2月の学習成果発表会の後の時間に、スクールカウンセラーを講師に、保護者の方を対象にした子育て懇談会を予定している。内容については、保護者の方と相談しながら進んでいる。		・何気ない日頃の子ども達の様子をHPに掲載されていることは、保護者の安心・信頼につながる。		・保護者が求めている支援について考え、学区内外の保護者同士の横のつながりができるような機会の設定について考えていきたい。
保幼小中の連携	16	子どもの校種間交流や教員の出前授業	B	B	・幼小中の接続期の教育課程を意識した連携、交流ができています。	A	・小小交流では、お互いの少人数化をもとにして交流しながら解決策を考える大切な場にしてほしい。	・1年間見直しを持って活動ができるように、今後も教育課程を意識した連携、交流を続けていきたい。	
	17	校種間の授業公開や合同研修会	B		・小小交流（里小・上田上・葛川等）は、子どもたちの視野を広げる一助となっている。少人数化が進んでいくことを鑑み、学びの交流をしたり、考えたことを発信する機会を作ったりできるように考えていけると良い。		・多様な考えを知る機会として他学校との交流は大変意味があると思う。今後とも、幼小連携をお願いしたい。		・子どもたちの学びを広げるために、小々交流を継続して行っていきたい。日々の学習の考えを交流する機会を作るなど、継続した連携ができるように工夫していきたい。
	18	保幼小中の接続期の教育課程の編成等校種間のカリキュラム研究	B		・6年生が考える「仰木の将来」について、地域に発信することは続けていき、大学生が考える「仰木の将来」と交流し、比較することでも考え方は広がるかもしれない。		・大人数の中学校に入学することをふまえて高学年からの交流も必要。		
生徒指導	19	いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導	A	B	・ちょっとした言葉や表情を見逃さず、子どもの思いを言語化させ、不満や行き違いを解消して行く作業が毎日続く。自分の思い、本音を表出できる場と集団づくり、そして子どもの背景、家庭状況に思いを巡らせることが大事である。	B	・子どもの小さな行動や言葉の中にその子の思いが現れていることを指導者は常に意識していることが大切である。そのためにも小規模校では全職員での取り組みが必要であろう。	・全教員の目で全員の子ども達を指導していくという意識を持ち、気づいた子ども達の様子をすぐに共有できる体制を確立する。	
	20	生徒指導・教育相談体制を確立と組織的な推進	B		・教員の人数が少ないこともあり、情報共有は素早くできているが、予防指導については、生徒指導部会を中心に発信し実行していく必要がある。		・なるべく早期に課題に向き合うためには、日頃からの教師間の語り合い、何でも話せる関係性、少し変だと感じたことは、言葉に出してみる等が必要だと感じている。		・生徒指導部会で、時期に合わせた問題行動の予防について検討し、教師によって生徒指導に差がないよう全職員に共通理解を図る。
	21	家庭・地域・関係機関との連携による指導	B		・教職員一人一人の個性を活かしつつ、子どもにも「去年はこうやった」と言わせない組織対応が必要。		・子どもたちのささいな変化があれば関係機関との連携のもと対応をお願いします。		
特別支援教育	22	個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用	B	B	・特別支援教育は「すべての子ども」を対象に行うものとの認識のもと、様々な特性を「個性」と捉え、その個性をできるだけ受け止め、受け入れられる学校づくりに努めている。	B	・個に応じた丁寧な対応が大切であるが、教室を出た時には集団の中での自分の立ち位置を意識させることも大切であろう。子ども同士の支え合う風土は大変良い。	・個別の具体的な支援については、教職員からの支援だけでなく、子どもたちの関係性も重要である。子ども同士で支援できる力をつけていけるよう、子ども同士の関係性や子どもを育成していく視点を大切にしていきたい。	
	23	組織的・計画的な特別支援教育体制の確立	B		・各担任をはじめ、全教員が子どもたちの様々な特性を「個性」と捉え、「クラスの一人」「仲間の一人」と考えている。様々な個性を大人が認めて行く姿は、子どもにも良い影響を与え、認め合える集団づくり、支持的な風土づくりにつながるっている。		・子ども同士の支え合い、高め合いを目指すには、教師が先取りしすぎないことが必要である。		・先を見通した働きかけにも視点をおき、組織的な体制の確立を行う。
	24	関係機関と連携した相談体制の充実	B		・個に応じた丁寧な対応を目指し、組織的、計画的に対応し、関係機関との連携を行っている。		・社会に出て行くなかで子どもたちも様々な人を受け入れられる人になってほしい。		